

恵みと真理のニュース



2017 年 6 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証言】

神様は私の重い病気を治療してくださってもっと喜ぶ心で礼拝し、 熱心に福音を伝えるようにしてくださいました

私が80歳に近く生きながら人生で数々の危機に会って逆境を
通ってきました。そして、今までの苦難がこの世を生きなが
ら経験する軽い事であること悟って神様に感謝と賛美をささ
げます。

私はジョンラドのキムゼで生まれ幼年期と青少年期をそこで
暮らして大人になっては宗家の嫁になりました。振り返って
みるとその大変な時期をどのように過ごしてきたのか考える
ほど日々が苦しい連続でした。その期間を詳しく説明するこ
とはできないが、代表的に私が祭祀を準備することだけでも
腰が壊れるほどでした。貧しいごろ毎月ことに12回の祭祀を
準備することはやさしいことではなかったです。偶像崇拜を
する家の大体は小さい問題が出来たら先祖に祭祀をよく捧げ
なかった理由で姑は酷く偶像崇拜をしました。さらに家の
宗廟の祭祀があると何日間はその祭祀の事で忙しくて何事も
できませんでした。

しい嫁入り暮らしをして子供の世話をしているから、いつの
まにか白髪が出て60年が過ぎました。苦しくて重い荷物が私
の肩を離れなくて大変な時間を過ごして、私の心の中で鳴き
声が絶えないある日、普通っていた教会が懐かしかったです。
ちょうど首区域長から伝道されて恵みと真理教会に来てイエ
ス様を受け入れました。

10年前のその日の恵みと感激を忘れません。教会の中に入っ
て礼拝をする時間心があたかくて平安でした。そのように
私の楽しい信仰生活が始まりました。祈って賛美することも
楽しかったが、何よりも当会長の牧師の説教の御言葉を聴く
のが良くてその時間が幸せでした。教会に行く日を待ちまし
た。



【信仰コラム】

“...これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人
の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈
っていないさい。”(レカによる福音書21:35、36)

この世の終末がどのように迫るかについて人々は様々な側面
で話しています。地球温暖化の現象、流星と小惑星の地球衝
突、無分別な浪費と乱獲による資源枯渇と自然毀損、核爆弾
と細菌と化学武器のような大量殺傷武器が動員される戦争、
津波と地震と火山等の自然災害、抗生剤の乱用と恐れるべき
の伝染病等がそれです。しかし、このような原因によってこ
の世の終末が迫るのではありません。この世の終末はイエス
キリストの再臨で叶えられます。再臨なさったイエス様がこ
の世を審判なさるその日に空が火で燃えて解かれ、元素は熱
い火で溶けてしまうでしょう。だからといって上で指摘した
ことに無関心してはなりません。このようなことが人類の終
末をもたらすわけではありませんが、主の再臨を知らせる兆し
なので注意深く見る必要があります。

救いに対する真理は聖書に明確に啓示されていますが、イエ
ス様の再臨や千年王国に関する聖書のお言葉は一貫した解釈
をし難い部分があるので様々な学説があります。その学説に
はそれなりの根拠があります。

思いがけなかった事で家庭の家計が悪くなって子供達の荷物
を少しでも減らす心で私も職場を通して仕事をするようにな
りました。礼拝する喜びを忘れないように神様にたくさん祈
って、神様が摂理してくださって礼拝によく参席して恵みを
受けて職場でも楽しく働くことが出来ました。熱心に信仰生
活をすると、名節になると心が重く押さえつけているのがあ
りました。先祖に祭祀をする事でした。私の決断の祈りを捧
げ神様が助けてくださるのを求めました。次の名節には家族
皆が集まっている時にこれから祭祀をしないと強く宣言しま
した。予想の通り妹弟達が反発しましたが旦那まで説得して、
家族はなお氣に入らなくて家に帰れいました。

そのことがあってまもなく旦那の弟の妻が癌になった話を聞
きました。すると、妹たちは仙蔵に祭祀をしなくなったから
起こった事なのでまた祭祀をしようと強く要求しました。し
かし、旦那と私はこのことを断りました。それで、今は名節
になるとみんな集まって家庭礼拝を捧げて家の賛美を歌って
とても感謝します。

2年前春、急に体に異常が出来ました。職場を通うことが出来
ないほど健康が悪くなって退職して家の近くにある病院に通
い治療を受けました。初めは胆石があってそれを除去する手
術を受けました。しかし、手術の後むしろ、食欲がなくなっ
て食べなくて氣力が押して座ること立つこともできない状態
になりました。教会にも行けなかったです。MRI検査をしても
何の異常もなかったです。そして、一か月間治療を受けて病
院で意識を失ってしまったが、目を覚めたらソウルの大きい
病院に移送された後でした。脳に腫瘍があるのを遅く発見し
たのです。

一時が急いでいるという医者話によって、緊急で12時間長
い時間大手術を受けました。手術が終わってすぐ、回復室を

経ずに重患者室に移されました。医療人と家族の心配をしま
したが、良く手術が出来ました。何よりも驚くのは手術室
に入るときやまだ回復しない状態で重患者室に入った時にも
横になった天井ことにイザヤ41章10節の御言葉が私の目に入
りました。私の意識がなかった状態なのに誰がどのように書
いたのか疑問に思っ御言葉を黙想して神様の慰めと励まし
を受けました。” 恐れることはない、わたしはあなたと共に
いる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあ
なたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。”

私の意識が戻って来てから”あ！神様が私と共におられたの
だ” と思いました。感謝の涙をたくさん流しました。そして、
私が病院にいる間教会で牧師と多くの聖徒達が共に切に祈っ
てくれたのを知ってからもっと感謝しました。健康を回復し
てまた教会に来て神様に礼拝する生活があまりにも感謝で幸
せなのかわかりません。今は寝る時間ももったいないほど24
時間すべてを神様を賛美したいです。

私の魂を救ってください、永遠な天国を下さった神様、私の
命を延長してくださってもっと礼拝の感激を享受して熱心に
救いの福音を伝えるようにしてくださいました神様に感謝と賛
美をささげます。

” だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの
「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる
人」は日々新たにされていきます。わたしたちの一時の軽い
艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をも
たらしてくれます。わたしたちは見えるものではなく、見え
ないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見
えないものは永遠に存続するからです。ハレルヤ！

携拳されるのを慕いながら生活しましょう

千年王国についてはヨハネの黙示録 20 章に記録されています。
”この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また
聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの
力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと
共に千年の間、支配する。”このお言葉に対する理解の差で千
年王国に関連して無千年説、後千年説、前千年説の三つの学
説があります。

前千年説はキリストが直接治められる千年王国が到来する前
にイエス様が再臨なさるという学説で2つに分けられます。
聖徒達が再臨を通過するという見解と聖徒達は再臨を通過
せずに携拳するという見解です。大多数の教壇では聖徒達
が再臨の前に携拳するという学説に従います。

前千年説が順序通りに整理してみます。

第一は、イエス様が空中再臨なさい、その日にキリストの中
で死んだ者達が先に起きて生き残った聖徒達が續いて瞬時に
変化され空中で主を迎接するでしょう。神様が聖徒は大艱難
を受けないよう空中で主を迎接するようにしてくださいます。
第二は、この世は 7 年間の大艱難があるでしょう。正しい信
仰がなく名だけの信者達が引き上げられずに残って艱難を経
験します。第三は、大艱難の後にキリストの地上再臨があり
ます。第四は、キリストが千年の間統治なさいます。その期
間にはサタンを縛って底無し地獄に閉じ込めます。第五は、
千年の後にサタンを底無し地獄から出します。すると、サタ

ンが人々と迷わして聖徒達を攻撃するようにします。第六は、
サタンと敵キリストと偽りの予言者を硫黄の火に投げ込みま
す。第七は、最後に審判があります。

聖書は聖徒達に主の表れを懇切に眺めて慕うよう命じられま
した。しかし、大艱難や敵キリストの出現に対して備えるよ
うには話しませんでした。それは聖徒達の携拳の以降に起き
ることだからです。その代りに聖徒達は”神の御子が天から下
ってこられるのを”待つよう話しています。そして”これらの
事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたが
たの救が近づいているのだから”としました。

聖書は聖徒達の携拳が大艱難の以前にあることを明確に啓示
しています。皆さんはイエス様の再臨がいかに近いのかを知
るための目的で聖書に予言された終末の兆しがどのように叶
えられているかを調べてください。イエス様の再臨を慕う者
に相応しく大きい喜びを持って主の事に励みながら生活して
ください。そして万が一、私達がこの世に留まる間にイエス
様の再臨を迎えるなら皆さんは全て携拳される光栄に参加する
よう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧
場、清い川』本の語り中」

原因と動機



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

人がどんな決断を出すとか行動をするようになる ところには原因や動機がいるものと決まっています。今日は原因や動機に関してよく見ます。

1. 原因や動機は人間の生存と生活に決定的な影響を及ぼして重大な結果をもたらす要素です。

人間はどんな原因や動機によって決断しながら行動します。原因や動機がどうかによって幸せと不幸、興亡盛衰に決定的な影響を及ぼすから重要です。まったく同じな対象や状況でもそれを認識する人によってそれぞれ他の原因や動機を提供するのがなことができます。ともすれば試験に入ったと言う人がいます。彼が当面する状況や対象を試験に入る動機になる人です。どんな人には試験に入るようになった原因でも心霊の壮健な信者はそれをむしろ鏡と警戒に分かって教訓を得る原因にします。そしてもっと神様を頼って敬虔な生活に力をつくす動機にならせます。

今日の本文を見れば対照的な二つの部類の人々がいます。過越の祭を控えてエルサレムに多い人々が集まって来ました。彼らにイエス様が死んだラザロをいかした事件は大きい話の種でした。ラザロと彼の妹であるマルダとマリアはベダニに暮していました。かれらはイエス様を大変愛したしイエス様もかれらをすごく愛しました。ある日ラザロが病んで死にました。イエス様はラザロが死んでから四日が経った後ラザロの墓でいらっしゃいました。イエスキリストがラザロの墓を阻んだ石を移しておきなさいと要求しました。石が移されるとイエス様が大きい音で“ラザロよ 出なさい。”となさったら死んだ者が歩いて出ました。イエスキリストがおっしゃるのを“解いておいて通わせなさい。”としました。この驚くべき光景を目撃した人々の口を通じてうわさがベダニを中心にエルサレムに急速に広がって行きました。多くのユダヤ人がまた生き返えたラザロを見てラザロの理由でイエス様を信じました。

死んだラザロがまた生き返えた事件は復活を否認するサドカイ人には衝撃でした。それで大部分サドカイ人で構成された大祭司長グループでは今度の事件がイエス様とラザロを殺そうと謾議する原因と動機になりました。聖書にはこんなに記録されました。“大ぜいのユダヤ人たちが、そこにイエスのおられるのを知って、押しよせてきた。それはイエスに会うためだけではなく、イエスが死人のなかから、よみがえらせたラザロを見るためでもあった。そこで祭司長たちは、ラザロも殺そうと相談した。それは、ラザロのことで、多くのユダヤ人が彼らを離れ去って、イエスを信じるに至ったからである。”(ヨハネによる福音書 12: 9-11). “ラザロのために” 多いユダヤ人がイエス様を信じるようになった一方 “ラザロのために” 大祭司長はイエス様とラザロを殺そうと決心して謾議したのです。

まったく同じな対象と状況を置いてどんな原因と動機にするかと言うことは各人が決めるはずでそれによる結果はその人の責任です。

2. 私たちは多くの人々にイエス様を信じるようになる原因と動機を提供する者にならなければなりません。

“ラザロのために” 多い人がイエスキリストを信じたという記録はまた一つの重要なメッセージを持っています。ラザロは多くの人々がイエス様を信じるようになる原因と動機を提供する役目をしました。ラザロの努力のためではなくイエス様が彼をいかしてくださったからです。すべてのクリスチャンはラザロが経験したこと以上の神秘的な経験をした人々です。すべてのクリスチャンは死んだ状態で生き返えた人々です。これは肉体に起こった事ではなくて靈魂に起こった事です。エペソ人への手紙 2 章に次のように記録されました。“さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であって、かつてはそれらの中で、この世のならわしに従い、空中の権をもつ君、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている靈に従って、歩いていたのである。また、わたしたちもみな、かつては彼らの中にいて、肉の欲に従って日を過ごし、肉とその思いとの欲するままを行い、ほかの人々と同じく、生れながらの怒りの子であった。しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし—あなたがたの救われたのは、恵みによるのである—”(エペソ人への手紙 2:1-5). とがと罪で死んだ者がイエスキリストによって神様の恵みで新しい生命を得た者になりました。だから クリスチャンがすべきことはとがと罪から死んだ私たちが新しい生命を受けて生まれかわった人になったことを人々に知らせるのです。

3. 私たちは他人に不信仰の動機を提供するとか試験に入らせる原因提供者になてはいけません。

ガナアンを探った斥候の中の十人はイスラエル民が試験に入って神様を恨んで逆わせる原因と動機を提供しました。彼らはガナアン地を探知して帰って来て民に会報してモセに報告するのを “彼らはモーセに言った、「わたしたちはあなたが、つかわした地へ行きました。そこはまことに乳と蜜の流れている地です。これはそのくだものです。しかし、その地に住む民は強く、その町々は堅固で非常に大きく、わたしたちはそこにアナクの子孫がいるのを見ました。(民数記 13:27, 28) 引き継いで言うのを “しかし、彼とともにのぼって行った人々は言った、「わたしたちはその民のところへ攻めのぼることはできません。彼らはわたしたちよりも強いからです」。そして彼らはその探った地のことを、イスラエルの人々に悪く言いふらして言った、「わたしたちが行き巡って探った地は、そこに住む者を滅ぼす地です。またその所でわたしたちが見た民はみな背の高い人々です。わたしたちはまたそこで、ネピリムから出たアナクの子孫ネピリムを見ました。わたしたちには自分が、いなごのように思われ、また彼らにも、そう見えたに違いありません。」”(民数記 13:31-33) このような見てからは悲劇的結果をもたらす原因と動機になりました。十人は神様が下った災いで死にました。民はその日から 38 年間を荒野で放浪するようになってエジプトから出る時 20 歳以上の人はガナアン地に入ることができずに荒野で死にました。

他人の信仰を毀損させて、他人を試験に入らせる原因と動機提供者になることは非常に悲劇的なことでその責がごく重いということを教訓する歴史的な事件です。

4. 私たちは他人に良い原因と動機を提供する者になることに決心して行わなければなりません。

アメリカの思想家で詩人で有名なエマソン (Relph Waldo Emerson) の体験談の中おもしろい話があります。彼が休暇に迎え田舎に居住しながら ある日雌牛を牛小屋でひいて入れようと思いました。ところであらゆる方法を使って見ても雌牛は搖之不動でした。ところで牛乳の仕事をする少女が雌牛に近付いたら指に唾を吐いて 雌牛の口に塗ってくれてからは苦勞しないで牛を牛小屋でひいて入って行きました。少女は雌牛に動かせる動機を与えたのです。エマソンは雌牛に牛小屋に入って行かせる動機を与える方法は分からなかったが人々に生の態度を替える動機を持たせる方法は分かりました。彼は演説と著述を通じて多い人々に手助けになりました。

聖徒の皆さんは他人に信仰と幸せと成功に有益な動機と原因を提供する人になるのを願って努力してください。① 気落ちの中にいる人にどのようにすれば所望を持つように動機を提供するはずなのかを思いながら努力してください。② 神様の仕事に力をつくさない人にどのようにすれば神様の仕事に献身奉事するように動機を提供するはずなのかを思いながら努力してください。③ 不信者にどのようにすればイエスキリストを信じるように動機を提供するはずなのかを思いながら努力してください。

5. 何が原因と動機になって生きて行こうか？ することは私たちの生において最大の課題です。

ローマ人への手紙 8 章に記録されるのを “なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、靈に従う者は靈のことを思うからである。肉の思いは死であるが、靈の思いは、いのちと平安とである。なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである。また、肉にある者は、神を喜ばせることができない。” (ローマ人への手紙 8:5-8) しました。概して人々は肉体的な問題、経済的な問題、心的な問題解決を受けるための動機でイエス様の位に出ます。歓迎する事です。しかしイエスキリストを信じるようになった後には神様を敬い畏れて愛する動機がまずされなければなりません。神様の光栄の慈しんで、主を嬉しくしようとする動機がまずにならなければなりません。このような人よりもっと強くて賢い人はいないし、このような生活よりもっと恵まれて美しい生活はないです。

今までの内容を整理して要約して見ます。第一は、皆さんが当面する対象や状況を神様を深く頼って神様の仕事にもっと力をつくす原因と動機になるようにしてください。二番目は、他人に信仰と生に有益な原因と動機を提供しようとして決心して実践してください。三番目は、神様を敬い畏れて愛するのが原因と動機になってすべての仕事を行うようにしてください。聖徒の皆さんは立派な原因と動機を作って他人に提供して自分に適用する仕事を持続的に発展させて行ってください。